

<p>6日 (日)</p> <p>エゼキエル 41章</p>	<p>「そして彼はわたしに『ここが至聖所である』と言った」(4節)。主がくださるあたらしい神殿は、国を失い、心の支えを失ったイスラエルにとって、生きる力を与えてくれる。その時、その民に必要な神殿の幻をくださる神。わたしたちが頂く幻を共に祈りもとめていくものとされたいと願います。</p>
<p>7日 (月)</p> <p>エゼキエル 42章</p>	<p>「彼らは別の衣服に着替えて、民のいる所に近づかねばならない」(14b 節)。神殿建築には一つひとつに造られた意味がある。テラス・外庭・内庭・通路・・・祈りの込められた計画であることを心に留めて、わたしたちの教会の働きに、主の業を祈りながら見出すものとされたい</p>
<p>8日 (火)</p> <p>エゼキエル 43章</p>	<p>「祭司たちはあなたたちの焼き尽くす献げ物と和解の献げ物を祭壇にささげる。そしてわたしはあなたたちを受け入れる」(27 節)。ケバル川で見た主の幻は、すぐ近い。主の言葉に耳を傾け、悔い改めと和解に促される時、わたしたちは主への礼拝へと招かれる。主よ、わたしたちの讚美を受けてください。</p>
<p>9日 (水)</p> <p>エゼキエル 44章</p>	<p>「すべての掟とすべての律法に心を留め、自分の目で見、自分の耳で聞きなさい。」(5節)。祭司の働きは神との関係を常に問われる。自分の行いへの責任、主の民の命への責任、主の前に一人立ち続ける責任。バプテストの万人祭司の言葉の責任の重さを心に留め、教会を建てるわたしとされたい。</p>

<p>10日 (木)</p> <p>エゼキエル 45章</p>	<p>「あなたたちは、正確な天秤、正確なエファ升、正確なバト升を用いなさい」(10節)。主は正しく図り、正しくささげたものを喜ぶ。主から受けた恵みの中から一部を聖なる献げ物として取り分ける。主は不法と収奪は喜ばない。正義と恵みの業によって、正しく献げる物を主は聖（きよ）めて受けてくださる。</p>
<p>11日 (金)</p> <p>エゼキエル 46章</p>	<p>「ここは神殿に仕える者たちが、民のささげるいけにえを煮る場所である」(24節)。神殿で行われてきたことは、主へのささげもの、神賛美、そして共に食すること。朝ごとにささげる礼拝は、命を分け合うこと。主の神殿は、そこに集うすべての命が大切にされる場所。礼拝は、創造主に命を委ねる場所でもあるのだろう</p>
<p>12日 (土)</p> <p>エゼキエル 47章</p>	<p>「水が流れる所では、水がきれいになるからである。この川が流れる所では、全てのものが生き返る」(9節b)。水が流れる場所は、濁りがなくなる。時代も流れる。共同体の姿も変わる。主の民の嗣業も変わる。私たちがいただいた嗣業を「だれ」と分かち合うことができるだろうか。</p>
<p>13日 (日)</p> <p>エゼキエル 48章</p>	<p>「この都の名は、その日から、『主がそこにおられる』と呼ばれる」(35節)。エゼキエルに示された新しい都の幻は、ユダ族（ダビデ家）だけの繁栄ではなく、十二部族すべてが安住の地を受ける描写で閉じられる。「ダビデ家万歳！」の狭いビジョンではなく、「十二部族共生」のビジョンにこそ、主は共に歩まれるのだ。</p>